

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000562		
法人名	有限会社すいせん		
事業所名	グループホームすいせん川南	ユニット名	1棟
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南19415-1		
自己評価作成日	令和5年12月18日	評価結果市町村受理日	令和6年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_topiigvosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和6年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>グループホームすいせんの基本理念</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者様に寄り添いながら、ゆったりと穏やかに過ごして頂きます。 2. その人らしさを尊重し、居心地の良い環境の中で、自信や生き甲斐を取り戻して頂けるよう支援致します。 3. 笑顔の絶えないグループホームの実現を目指します。 <p>基本理念にそって、利用者様に寄り添いながら、一人ひとりの想いを丁寧に傾聴し、ゆっくと丁寧な優しい言葉で接し、楽しく穏やかな生活がおくれるよう、日々の介護に努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは日当たりが良く、南側に芝生があり、散歩やお茶などして外気浴を楽しんでいる。職員は理念に沿って笑顔で寄り添うケアを目指し、職員同士も利用者共なんでも話せる雰囲気があり、仕事にやりがいを持っている。毎年、隣接する田んぼで近くの小学生が田植えや稲刈り学習をするので窓越しで見学して楽しく交流している。年4回のすいせん便りには行事の写真をたくさん載せ、一人ひとりの様子を報告して家族が安心できるようにしている。川南地区にある3ヶ所のグループホームとはなんでも相談できるような連携協力体制を構築している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念を誰もが見えるリビングに掲示している。笑顔を絶やさずに声かけに配慮しながら支援している		事業所の理念を玄関やリビングに掲示し、毎回、定例会で唱和して職員の意識づけを行い、実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は地域ふれあい事業に参加したりボランティアの方々との交流を楽しんでいたが、現在は実施できていない		コロナ禍で難しかった事業所周辺の散歩等も少しずつ増えてきている。又、毎年、窓越しではあるが小学生の田植えや稲刈り時に見学して交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回開催する運営推進会議に民生委員の方や地区の方々にご参加いただき、報告、連絡、情報交換を行っている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、利用者様の状況等をお伝えしながら、評価、助言をいただいている		役場や地域の代表者など多方面からの参加があり、利用者の状況や行事など報告し、活発な意見交換がされ、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的に連絡を取り、新入所者様の受入れ等の連絡やヒヤリハット、事故等の報告を行い、常に相談にのっていただいている		役場の担当者が運営推進会議に参加し、認定調査にも役場の職員が来るので何でも相談している。又川南の他の3ヶ所のグループホームとも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、緊急やむを得ない身体拘束は実施していないが、年2回、職場内研修を行い、外部の研修にも参加し、身体拘束等の適正化に努めている		身体拘束マニュアルを作成し、年2回の職場内研修の際は外部研修の報告やケースを通して振り返りや話し合いを行い、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンライン研修の場合もあるが、職員が積極的に研修に参加している。研修報告を行い、職員同士で情報を共有し、虐待防止に努めている			

宮崎県川南町 グループホーム「すいせん川南」(1棟)

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の一部は、権利擁護、成年後見制度の研修に参加しており、相談があった場合は、行政につなげられるようにしている			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学をしていただき、契約時は、管理者が重要事項を説明し、十分理解、納得された上で署名、捺印をいただいている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。電話やご面会時等にご家族からの要望を伺っている。利用者様からも日々の会話の中から傾聴している	気軽に話せる雰囲気作りを心がけ、面会時や電話連絡の際に要望や意見を聞いている。部屋替えや散歩、外泊などできる限り要望に応えられるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会等を通じて職員の意見を取り入れている。気軽に意見や提案を言えるような雰囲気づくりに努めている	定例会や申送りの時など自由に意見や提案ができ、介護の仕方を統一したり、議事録でみんなで話し合うなど、より良い介護ケアに取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境改善研修に参加したり、何でも相談できる雰囲気を作ったりしながら、職員からの意見・要望等を可能な限り取り入れることができるよう努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍前は職員全員が順番で研修に参加していたが、現在はオンライン研修も多く、限られた職員のみ参加している。資格のない人は、資格取得の機会を案内している			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍前はグループホーム連絡協議会等の研修に参加し、他の事業所の方々との意見交換や交流できる機会を設けていたが、現在は交流機会が少ない			

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の想いを、ゆっくり傾聴しながら、不安な事を少しでも取り除き、要望に添えるようにしている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス提供を丁寧にご説明し、ご家族の不安や困っている事等、協力出来るように努めている。コロナ禍前はいつでも自由に、ご面会、外出や外泊できることをご説明し、安心していただいていた			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望、ご本人の希望を伺い、今現在必要としている支援ができるよう努めている。情報収集を行い、当面の介護計画書から本プランにつなげている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に食べたり、ゆったりと会話をしたりしている。掃除や洗濯物干しなどの家事手伝いも一緒に行っている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時や電話等で、常に連絡を取り合いながら、情報を共有している。衣替え等、ご家族と協力しながら行っている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で使用していたものや思い出のものなど自由に持ち込んでいただいている。自宅周辺にドライブに出掛けることもある	病院や花見の帰りなど利用者の自宅周辺をドライブしたり、家族や友人が来訪した際にはできるだけ、居室で面会できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	顔見知りの方など一緒にテーブルに座っていただき、昔話等をされている。レクリエーションの時間は一つのテーブルに集まり楽しんでいただいている			

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設外で会った時は、近況を伺ったりすることもある。いつでも相談して下さいとご家族にお伝えしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり、ご本人の想いを言動や表情から読み取っている。情報を全職員で共有し、支援につなげている		私の気持ちシートなど使い、利用者の思いを把握し、職員全員で共有している。コーヒーやケーキ、お寿司が食べたいとの利用者の要望の実現にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新聞を読む事が日課だった方には新聞をお渡しし読んでもらったりと一人ひとりの生活歴を把握し職員全員で情報共有に努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調に応じて、一人ひとりの意向を伺った上で、ご自分でできる事を探し、支援している			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を伺い、ケア会議等を活用して介護計画書を作成している。毎月モニタリングを実施し、見直しも行っている		毎月、担当者がモニタリングを行い、家族の意向や本人の状態、介護記録など職員間で話し合い、現状にあった介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に沿った支援を行い、その都度、個別記録に記入している。定例会等で情報共有し、支援につなげている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を常に伺いながら、自立支援を目標に支援している。訪問看護やデイケアとの連携、福祉用具も活用している			

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍前は地域ふれあい事業に参加したり、傾聴ボランティアの方々との交流を楽しまれていた。園児や踊りの慰問交流も大変喜ばれていたが、現在は実施できていない			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には情報提供書を作成し、かかりつけ医との連携を支援している。付き添いが困難な場合は、職員がガイド対応している			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との連携により、一人ひとりの健康管理や医療支援につなげている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を作成し、お薬情報とともに、医療機関に提供している。病院やご家族との情報交換に努め、すぐに対応出来るようにしている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時事前確認書として、ご本人に意思を確認し、ご家族にも終末期に向けた確認をしている。職員は看取りの研修にも参加し、連携体制の整備に努めている		入所時に終末期の説明を行い、確認を行っている。まだ看取りの経験はないが定期的な訪問看護や協力医との情報共有や職員の役割、体制作りなど医療連携に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防通報訓練、初期消火訓練、心肺蘇生法訓練等、定期的に訓練し身につけているが、コロナ禍により、消防署の方々の立ち合いは実施できていない			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施している。緊急連絡網を作成し、全職員が周知している。防災研修に参加し、常に危機感を持ち、意識を高めている			

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や想いを把握した上で、尊敬の意をもって言葉かけを行っている。お名前を呼び、優しい言葉かけを行っている		排泄の時は耳元で囁いたり、申送りの時はイニシャルを用いたりして尊敬の意をもって言葉かけしている。男性は居室での活動を希望される方が多く、本人本位の対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の言動や表情から、今、何を望まれているのか把握できるよう努めている。分かりやすい言葉かけや、ゆっくりとお話できる時間を確保している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を伺いながら、居室でテレビを見たり、新聞を提供したり、ご本人のペースでゆっくりと過ごしていただいている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容で美容室の方が訪問してくださり、散髪、整容支援を行っている。更衣時は、可能な限り衣類を一緒に選び、希望を反映している			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れた献立を作成し、可能な限り手作りの物を提供している。食事準備、片付け等、出来る事は職員と一緒にしている		2名の調理専門の職員が栄養面や味付けなど考慮し、誕生日には利用者の希望する献立やケーキを準備している。利用者は台ふきなどできることを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量をチェックし、個人記録に記入している。一人ひとりの状態を把握し、職員同士で共有している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、義歯洗浄、舌専用のブラシを使い清潔を保っている			

宮崎県川南町 グループホーム「すいせん川南」(1棟)

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	間隔をみながら、トイレの声かけ、誘導を行っている。排泄パターンを把握するよう心がけている。ご家族の負担軽減の為にも排泄用品の見直しも行っている		排泄パターンを把握し、声掛けして日中はトイレで排泄している。パッドの汚れが少なくなったり、布パンツになった利用者もあり、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医に相談しながら服薬調整していただいている。歩行訓練をしたり、水分提供時にオリゴ糖を入れたり、乳製品を毎日取り入れている			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調に応じて声かけを行い、週3回実施している。毎回、順番も検討している。入浴剤やゆず風呂なども楽しんでいただいている		週3回、午後の入浴が行われている。体調の悪い方や拒否のある方は時間や曜日を変更して対応している。ゆず湯など気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に沿って休息していただいている。布団を干したり、カバーを洗濯したりして清潔を保ち、冷暖房の調節をしながら安眠につなげている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で共有し、理解に努め服薬していただいている。名前、日付、本人確認を二重にチェックし、飲み込まれるまで見守り、確認している			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍前はカラオケや園芸療法も取り入れ、花や野菜を育てていた。一人ひとりの好きな事、できる事を見極め、個別に支援する時間を確保するなどしている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍前は外食支援、園外レク活動等行っていた。ご家族にも参加していただいていたが、現在は実施できていない。外気浴等、戸外では一緒に季節感を味わっていただけよう支援に努めている		コロナ禍前はいろいろな行事(外食、地域の祭り、敬老会)に参加していたが今はないので事業所周辺の散歩や花見で外気浴など園内行事を楽しんでもらうように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	1棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の金銭管理は難しい為、原則としてご家族にお願いしている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があった場合は、自由にお話していただき、安心されている。ご本人から希望があった場合は、ご家族様へお繋ぎしている。書字練習等も取り入れている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように、リビングや玄関など利用者様と一緒に飾り付けを作ったり、飾ったりしている。温度湿度計を設置し、空気清浄機や加湿器も活用しながら常に快適に過ごせるよう調節している		共有スペースは清潔で気持ちよく過ごせるよう温度、湿度に気を付けている。またリビングや玄関、廊下など利用者と一緒に作成した飾り付けがされ、季節を感じられる居心地よい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の希望に合わせ、陽の当たる暖かい場所を提供したり、テレビを見たり、会話をしたり、ゆったりと過ごしていただいている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたものや、思い出の物などを持ちこんでいただいたり、写真なども飾ったりしている。入所時に、新しく買い揃える必要がないことをお伝えしている		居室には馴染みの家具や写真など家族や本人と相談して持ち込んでいる。職員は利用者が安心して居心地よく過ごせるように寄り添うケアに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に名前プレートを飾ったり、名前を大きく書いた貼り紙をしたりして、ご自分の部屋が分かりやすいよう工夫している。夜間は、廊下に足元灯が点灯し、安全に歩行できるようにしている			